

より魅力的な生き方

「ウェルビーイング」で新産業を創出

殿町リサーチコンプレックス

東京・羽田空港の多摩川対岸に位置する神奈川県川崎市殿町地区のキングスカイフロント。国の特区制度を活用し、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点として開発が進む。これを牽引するのが慶應大学が中核機関となった「殿町リサーチコンプレックス」だ。集積した研究機関、企業等が異分野融合し成果の事業化から人材育成まで統合的に展開するもので、ヘルスケアと医療分野を中心に「ウェルビーイング（より魅力的な生き方）」実現に向け、この4月から新たな段階に入る。中核機関である慶應大学の吉元良太特任教授、慶應義塾の青山藤詞郎常任理事、それに次の殿町地区のクラスターマネジメントを担う川崎市産業振興財団の三浦淳理事長の3人に話を聞いた。

国内外を結び ライフサイエンスの一大拠点

——キングスカイフロントは着実に開発が進んでいます

三浦 2008年に殿町地区の整備方針が策定され、2011年から、いすゞ自動車川崎工場跡地の区画整理地区40%程に基盤整備と施設立地を進め、現在は慶應大学、東京工業大学などの大学のほか、ジョンソンエンドジョンソン、メドトロニックなどの企業、さらには、先進的な研究から社会実装をめざすナノ医療イノベーションセンターや日本有数のベンチャーなど、実験動物中央研究所や国立医薬品食品衛生研究所といった研究機関を含め、70程の機関が進出しています。これでは第1段階としての街区整備、研究機関の集積が既成化し、すでに研究シーズのビジネス化が着々と進んでいます。高度な技術をもったベンチャーの成功事例も出ています。

殿町地区は多摩川を挟んで羽田空港があり、国際的なオープンイノベーション拠点としては抜群の立地にあります。また周辺の東京都大田区から川崎市や横浜市にかけてはすでに先進的な研究開発機能や基盤技術など日本を代表する産業の集積地となっています。キングスカイフロントはグローバルな視点と同時に、周辺地域だけでなく全国各地と連携できるローカルな側面を併せ持った“グローバル”拠点でもあります。

——殿町リサーチコンプレックスとはどんなプログラムですか

吉元 科学技術振興機構の新規事業「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム」に、慶應大学が中核機関として川崎市など自治体と他の大学、企業とともに応募し、2016年に本採択されました。これはさまざまな研究機関が異分野

融合して世界的な競争力をもった最先端の研究を行い、その成果を事業化（社会実装）するというものですが、それだけではなく事業家の人材育成や資金的な支援、周辺地区の街づくりなども含め統合的に展開するための複合イノベーションの基盤づくりです。

青山 慶應大学と川崎市とは新川崎理工工学部キャンパスがあって提携するなど深い結びつきがあり、リサーチコンプレックスのプログラムに応募するにあっても、殿町地区の国家プロジェクトと協力するのは前提だったわけです。自治体との共同提案でなければならなかったということもあります。

もともと殿町地区の新産業の創出と、そのための国際的な拠点づくりという目的は、まったくリサーチコンプレックスの趣旨と合致するものですから、一緒に手を上げたわけです。

三浦 殿町地区を中心に、すでに国の革新的イノベーションプログラム（COI）を活用し、「体内病院」の実現をめざすCOINSプロジェクトが立ち上がっていましたが、リサーチコンプレックスの推進プログラムが開始され、さらに研究機関や企業・ベンチャーの集積が加速しました。キングスカイフロントの拠点づくりをこの推進プロジェクトが大きく牽引しました。

——具体的な研究と成果は

吉元 このプログラムの大きな目標は、超高齢、長寿社会の課題に向き合っており、世界中の人々が「ウェルビーイング」な生活を実現するための知見と製品サービスを生み出すことです。大きく四つのエコシステム・産業基盤づくりがあり、ひとつはアレイ技術やIT技術を活



学校法人慶應義塾 常任理事
殿町リサーチコンプレックスエグゼクティブ
オーガナイザー

青山 藤詞郎氏



慶應義塾大学ウェルビーイング
リサーチセンター特任教授
殿町リサーチコンプレックスオーガナイザー

吉元 良太氏



公益財団法人川崎市産業振興財団 理事長

三浦 淳氏

用した知的創業、二つ目は再生・細胞医療品の品質評価、三つ目は健康・医療データを集積・解析するシステムの構築、四つ目は医療機器とロボティクス。

現在、医療と健康の分野では研究開発が急速に進む一方、社会が求める課題も変化しています。これまでは治療中心だったのが、仮に障害が残っても社会参加ができるようにしたり、いかにデータを集積・統合して健康寿命とウェルビーイングにつなげるか、あるいは精神面も含めたライフサイエンスをいかに充実させるかといったことです。こうした新しい課題に世界レベルで応えることが新たな産業を創出することにつながります。

——「殿町ウェルビーイング宣言」が3月に出されましたが、この狙いは

三浦 この4月から川崎市産業振興財団が中心となって、集積した研究機関等のクラスターマネジメントを推進しますが、これまで通り慶應大学も研究や人

材育成などに大きな役割を担うことには変わりはありません。

——これからの具体的な課題は

吉元 ウェルビーイング都市の実現のためには、なによりもまずライフサイエンス分野で世界をリードする研究成果を、スピード感をもって達成する必要があります。そのためには大学や企業などとの壁を低くしてさらに融合しやすい環境をつくるのが欠かせない。データサイエンスの発達などで、医療分野でも開発に要する時間や資金量が縮小される傾向にあり、とくにアプリの開発などは数年もかからない。

また社会実装では、ベンチャーを立ち上げるのは当然のことで、いまはさらに世界のどこで事業化するか、外部のプレーヤーとどう組むかといった市場開拓にも頭を使わなければ、世界的な競争には勝てません。

青山 国際的な人と人との交流が活発化することが非常に重要です。羽田と直結すれば、世界各地から研究者が「ゼロ泊3日」でフェイストゥフェイスのミーティングに参加できる。研究成果の社会実装を幅広く考えるという意味でも、社会科学系の研究者にも入ってもらいたい。事業化では、慶應義塾はイノベーション推進本部を立ち上げて起業だけで

なく、一人前に歩けるようになるまで資金面を含めて支援する体制をつくっています。

三浦 羽田連絡道路は来年度中に開通をめざしています。文字通り「羽田～殿町」グローバル拠点としていっそう価値が高まります。世界中の研究者やその家族が集まり、企業などを呼び込むためには、研究環境とともに「街の魅力づくり」も欠かせません。ウェルビーイング都市には、住むことや生活を楽しむことの価値も含まれます。

事業化支援では、殿町発の優れたベンチャーを中小企業や大企業と結びつけることも大切なことです。周辺だけでなく

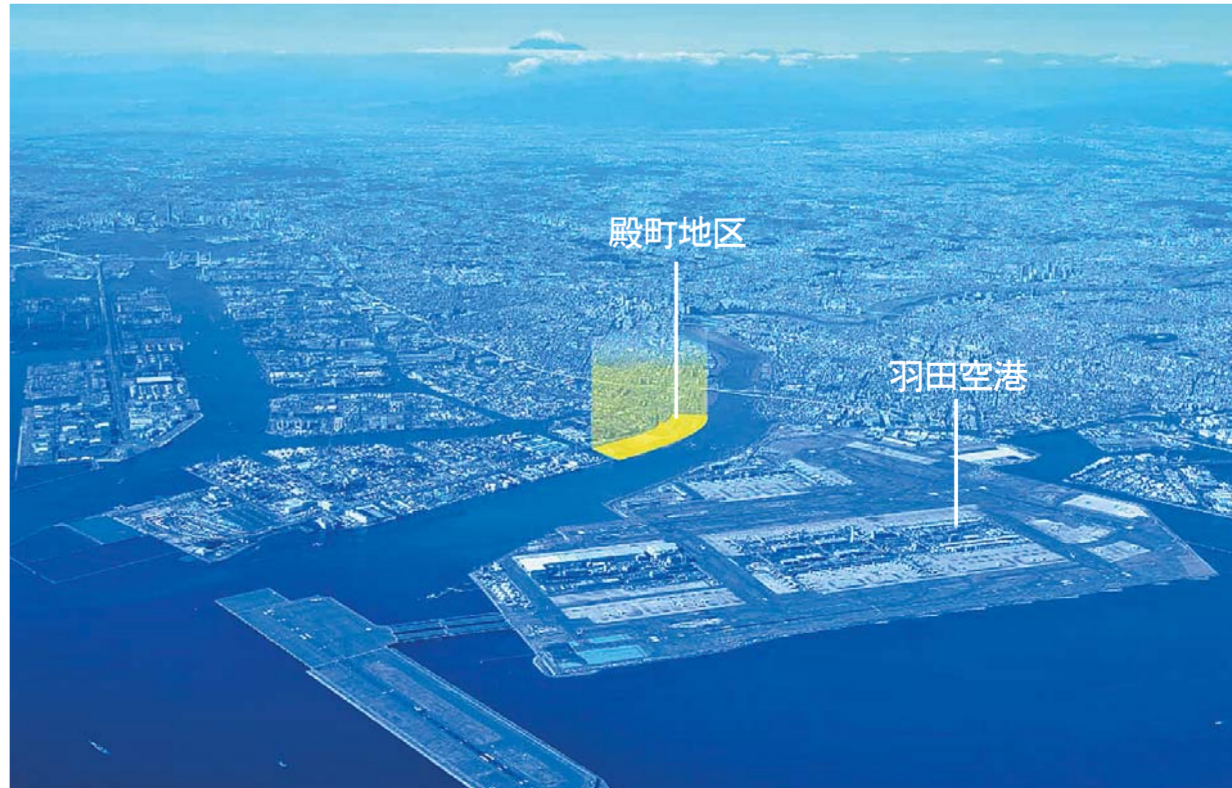
日本各地とつながり、日本型の発展モデルをここから発信したいと思います。そのためには産・官・学に金融機関も加えた全国レベルのネットワークが必要です。

——ウェルビーイング都市の構想が広がります

吉元 これまでになかったサイエンスとアートといったさまざまな「共創と連携」の場を大きな新産業創出と街づくりの視点で考えるということです。羽田一殿町と周辺エリアをライフサイエンス分野の一大クラスターにすることをめざしていきたいと思います。



慶應義塾大学殿町タウンキャンパス



羽田空港と殿町地区（黄色部分）

●●キングスカイフロント●●

羽田空港の多摩川を挟んだ神奈川県川崎市殿町地区のいすゞ自動車川崎工場跡地40%程を再開発する地区で、ライフサイエンス分野の研究所や企業等が集積するエリアの総称。

健康、医療、福祉、環境の分野でのグローバルビジネスを創出するのが目的で、国家戦略特区のほか国際戦略総合特区、特定都市再生緊急整備地域にも指定されている。殿町地区にはすでに慶應義塾大学殿町タウンキャンパスをはじめ大学や研究機関、企業・ベンチャーなど69機関が進出している。（2020年3月末現在）

4月からは新たな段階として「羽田～殿町発ウェルビーイング都市」の実現に向けて、ライフサイエンスの国際拠点づくりと全国各地との連携を含めた街づくりが本格化する。